

POCO ぽこあぽこ

法人創立三十周年を迎えるにあたって

事業企画推進室 室長 兼 児童支援課 課長 吉岡 弘三

平成 29 年 1 月、以和貴会に「事業企画推進室（AJITO）」という部署が創設され、室長として就任させて頂き、早くも 3 カ月が過ぎました。

事業企画推進室（AJITO）は「法人で働く職員を元気にし、活性化させる事で、障がいのある方やそのご家族、また、地域を元気にして笑顔を増やしていきたい」という事業方針に基づき、まず以下の活動を進めております。

① 人手不足の解消、人材育成

（以和貴会で共に働く仲間を増やし、支援の担い手に育成）

② IWAKI スタンドアートの確立

（法人各部署で異なる業務を整理し、職員に心地よく働きやすい職場環境づくり）

さてタイトルにもございます様に、以和貴会は昭和 63 年に社会福祉法人としての活動を開始しました。来年度には三十年を迎えようとしておりますが、この間に社会福祉は大きく変化し、行政主導から利用者主体の制度となり、各個人の希望に沿った生き方にどのようなサービスをどのくらい提供していくのかという内容に変わってきました。

また、この四月から始まった社会福祉法の改正に伴い、社会福祉法人の透明性を確保し、サービス提供の責務、地域と一体となった取り組みが義務付けられるなど、地域の社会資源としての法人運営を強く求められています。

事業企画推進室におきましても法人各事業所の施設運営のあり方や人材の確保・育成などを見つめ直し、ご利用者の皆さんが日々を有意義に楽しく過ごしていただける様な取り組みと同時に、ご家族にも喜んで頂けるような取り組みが今後より必要だと感じております。

その思いを完遂する為に詳細な地域ニーズの把握に努め、選択できるサービスの拡大・充実を目指しながら社会福祉法人以和貴会は、障がい児・者の皆さんとご家族が安心して暮らし続けて行ける社会を創造する為に総力を結集して支援活動に取り組んでまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



《平成29年法人方針》

理事長 下村 卓司

利他心＋自立心

□社会福祉法人にしか出来ない事とは利益追求ではなく、地域が幸せになる為のお手伝いをさせて頂くという視点に立つことができる。つまり、利他心そのものである。その人らしくというのは、利用者は勿論の事、職員や地域住民も含まれることを忘れず、日々精進してまいります。

□顧客とは、我々法人にとっては地域であり、地域に暮らす障がいのあるなしに関わらず住民全てである。地域で働かせて頂き、地域住民の税金で働かせて頂いているという事を再認識し、地域サービスを展開します。

《時代の要請に応える》

理事 岩井 俊二

従来、社会福祉法人における組織運営や経営管理は、豊富な識見を持たれた方々によって客観的にチェックしていただくことに重点が置かれていました。年数回の理事会、評議員会に於いては、開催時に各執行責任者より提示された数字上の結果と運営状況の説明に基づいて法人経営の方向性が定められてきました。しかし乍ら、審議時間の制約のある中での検討は必ずしも状況に即した施策を導きだすに至らない面もありました。

4月から社会福祉法人の制度改革に基づき法人運営に携わる理事会、評議員会の役割と責任が変わりました。それに伴うメンバーの入れ替わりが行われ、法人の運営に携わる理事会のメンバーとして、新たに日々の運営・管理に熟知した法人職員3名が理事として就任いたします。このことによって現場の実情の変化に合わせた組織運営がスピード感をもって図れることになりました。

社会福祉法人である以和貴会に託された本来の使命は、福祉サービスの利用を必要とされる方々に対して、人格の尊重と人権を守り、必要とされるサービスを適時、適切に提供することにあります。

そのような使命を果たすと共に、時代の要請として新たに施行された「社会福祉制度改革」の求める处に応えると共に、ご利用者ご本人の「意思決定支援」に必要な取り組みを本格的に行うことも求められています。

一方、少子高齢化の流れの中で、奈良県北西部も人口減少の流れが起きつつあり、地域の働き手の不足もより深刻化するものと考えられます。そのような状況の中において支援を必要とする方々の高齢化、重度化が進むと共に多様化するニーズにどのように応えていけばよいのかも大きな課題であるとの認識を致しております。又、社会福祉に携わる業界の置かれている厳しい状況についてもご承知いただいているところではあります。

以上のような状況を捉えつつ、昨年28年度の法人年度方針に於いては、今後を左右する年度として「遠慮（遠きを慮る）」を掲げ、あらゆる事象に目を配り、目の前のことに左右されず、遠くを見据えて今やるべきことを着実に進める。として活動をしてまいりました。しかし乍ら個別の事業計画においても、法人全体としても十分な成果を上げ得たと胸をはれる結果を残すことに至りませんでした。経営体質の強化を図ると共に時代の要請に応える運営が急務となっているとの認識を持ち、29年度の活動を行ってまいります。

「社会福祉制度改革」についての概要については法人広報誌「ぽこあぽこ」平成28年春号をはじめとしてこれまでにもアナウンスをしてまいりました。極めて公益性の高い当法人の果たすべき務めとして「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性」「財務規律の強化」「公益的な取組」の4点が挙げられています。

以上を踏まえ、地域における存在価値の持続的向上を図るべく「収益性の向上」「人材の確保と育成」「時代の要請に応える変革力」の3点を重要課題として、下記9項目に尽力いたします。

- 1) 人として尊厳ある暮らしと、その人らしくその人なりの人生を支え続けることをモットーとして、ご利用者の安全・安心・健康及び利便性に配慮したサービスの提供に努めます。
- 2) ソフト面、ハード面のニーズに応じた組織・体制の整備を行い、資源（人・物・金）を効果的、且つ、適切、適正な配分・運用に努めます。
＊老朽化が進む「ゆらくの里」の建て替え、又は、大改修実施には多額な資金の確保が必要であり、不要不急の出費抑制に努めます。
- 3) アクションプランにて具体的に設定される個々の中・長期計画の実現及び年度目標を達成するため、5W1Hを明確にし、P・D・C・Aの管理のサークルを確実に廻します。
- 4) 支援状況が客観的に確認・評価できるように日々の支援記録の充実に努めます。
- 5) 必要な職員数を確保すると共に、職員が以和貴会でよかったと言えるような労働環境の向上に努めます。
- 6) 支援力強化のための職員一人一人のスキル及び知識向上に努め、ご利用者の日々の暮らしに寄与する構造化の試みや箱庭療法への取り組みを継続します。又、年度テーマを定めての研究発表会、その他の研修を適宜に実施いたします。
- 7) ご利用者、ご家族と職員との絆を深める交流の場の充実に努めます。
- 8) 行政によって定期的に行われる監査の際に示されたご指導や監事、オンブズマン、ボランティア等外部の方々の客観的な目で見られてのご指摘やご要望を頂いた課題の解消に努めます。
＊行政による関与は今回の制度改革によって従来以上に強いものになります。
- 9) 法人紹介パンフレット、法人ホームページ、法人機関誌「ぽこあぽこ」、法人フェイスブック等による情報発信に積極的に努めます。

以 上

《平成29年度予算》

平成29年3月25日開催の理事会及び評議員会におきまして、下記予算を承認いただきました。法人全体としては、事業活動収入は4.9%増の778,141,000円、事業活動収支差額は1.6%減の95,026,500円、当期資金収支差額は65.3%増の16,531,500円を予定しております。

(単位:千円)

拠点名		ゆらくの里	今人	地域	合計	消去	合計
事業活動による収支	事業活動収入	420,168	151,172	210,301	781,641	△3,500	778,141
	事業活動支出	348,136	146,895	191,583	686,614	△3,500	683,114
	事業活動資金収支差額	72,032	4,277	18,717	95,026	—	95,026
施設整備等による収支	施設整備等収入	3,000	—	—	3,000	—	3,000
	施設整備等支出	25,911	—	19,188	45,099	—	45,099
	施設整備等資金収支差額	△22,911	—	△19,188	△42,099	—	△42,099
その他の活動による収支	その他の活動収入	—	—	11,700	11,700	△11,700	—
	その他の活動支出	40,896	—	7,200	48,096	△11,700	36,396
	その他の活動資金収支差額	△40,896	—	4,500	△36,396	—	△36,396
予備費支出		—	—	—	—	—	—
当期資金収支差額合計		8,225	4,277	4,029	16,531	—	16,531

法人内事業活動紹介 ～ 事業企画推進室-AJITO- ～

■ 事業企画推進室-AJITO- とは・・・

事業企画推進室 室員 松田 加奈

冒頭の記事でも触れていますように、2017年1月より以和貴会の新部署として「事業企画推進室-AJITO-」が創設されました。大きく言えば法人全体としてのお仕事ということになります。

このような責任ある部署に配属され大変プレッシャーを感じ右往左往してしまうこともあります、精一杯努めさせていただきたいと思っています。

いろいろとお仕事をさせていただいている中でも、今年度私が中心として進めさせていただいているお仕事として「IWAKI スタンドアードの確立」に取り組んでいます。

IWAKI スタンドアードとは、法人内の平準化ということになります。事業所間における支援や業務の相違を発見し「スタンダード」を構築していくために、各部署にお邪魔して活動の様子を見たり、会議に出席し支援内容や取り組みについてお話を聞いたりしています。今年で以和貴会の職員となって10年目となりましたが、自分も現場に入っている状態ではなかなか知ることができなかったことを沢山見つけることができています。

各事業それぞれに素敵なカラーがあり、方向性があり、思いがあります。それらを残し・伸ばしつつも、IWAKI スタンドアードを確立していくということは本当に難しい課題だと感じています。色々二の足を踏んだり悩み立ち止まったりすることもあります、それぞれが生き生きと働けるようなスタンダードを構築し利用者さまにより良い支援ができるよう、法人内外の沢山の方々に助言や協力を頂きながら遂行していきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

■ 以和貴会 30 周年プロジェクト 『わくわくプロジェクト』

冒頭の記事でも触れていますように、平成30年度には以和貴会の30周年となります。30周年にあたり「わくわくプロジェクト」というプロジェクトが立ち上がり、事業企画推進室のメンバーが中心となり進めています。

「30周年を迎える年に地域の方々と共にわくわくすることをたくさんしていこう!」というスローガンのもと、現段階では月1回の会議を有志のメンバーで行いつつ、日程が合わず会議に参加できない職員さんにもこのプロジェクトにできるだけ参画できるよう工夫しています。

わくわく
プロジェクト

～みんながわくわく企画をしよう～



第2回わくわくミーティングの様子

3月までの会議ではプロジェクトの方向性が決まり、30周年の年に行うイベントの枠組みを決めることができました。これからその枠組みにどう装飾していくかを職員皆で決めていきつつ、イベントだけではなく普段なかなか接点がない他部署のことを知る、交流ということも含めて推進していけたらと考えています。

法人内職員だけではなく、様々な方とこの「わくわくプロジェクト」を作っていきたいと考えておりますので、この記事を読んでくださっている方々からの「こんなことをしてほしい!」という要望や「こんなことができるよ!」という提案も募集中です。

各現場のスタッフにお伝えいただく形で結構ですので、是非ともよろしくお願い致します!

法人内事業活動紹介 ～児童支援課～

■ 放課後等デイサービス

児童支援課 リーダー 浦田 慎也

当法人には、障がいがあったり、発達に遅れがあったりする児童のための、療育活動を提供する場である「放課後等デイサービス事業」が2か所あります。



放課後等デイサービスセンター「HUG・LIVE」の活動場所の様子
〔左上〕 HUG (小学生クラス) 〔左下〕 LIVE (中高生クラス)



放課後等デイサービスセンター「HUG・LIVE」はボノボビル、ゆらくの里放課後等デイサービスセンターは障がい者支援施設ゆらくの里内にて、日々の支援を行っています。

それぞれ、小学校1年生から高校3年生までの児童が通われており、児童一人ひとりの発達段階に適した支援を行うため、アセスメント(客観的な現在の児童の評価、児童のニーズの把握など)をしっかりと行い、「個別支援計画」を作成しています。

中長期的な目標として、地域の中で自立して生活していけるように、身辺自立や余暇支援を中心とした生活支援活動のほか、小集団でのグループ活動を通して、社会性や協調性を学んでもらえるように支援を行っています。

ゆらくの里放課後等
デイサービスセンターの活動場所の様子



児童期は成人期を迎え、社会人になるまでの間に療育活動を行うことができる、限られた期間です。この貴重な期間を大切にしながら、将来地域の中で、その人らしく自立した暮らしやすい生活を送って頂けるように、様々な支援方法や療育活動を提案し、日々実践を行っています。

月1回開催している余暇支援活動では、様々な場所へおでかけをしており、子どもたちもとても楽しみにしてくれています。

クリスマス会の様子



香芝消防署見学の様子



法人研究発表会

2月25日

昨年4月から1年間、各グループ（事業）が28年度の研究課題を決め、取り組んできた事を研究発表として報告しました。利用者様のご家族にもご参観いただき、ボノビル4階のコミュニティホール「天空 HARERUYA」にて開催しました。各グループのテーマは以下の通りです。



ゆらくの里1G	ICIDH(国際障害分類)から ICF(国際生活機能分類)へ ～ここを手伝ってもらえれば、私は出来る～
ゆらくの里2G	M氏を見つめた 258 日間 ～こころの耳を通して～
ゆらくの里3G	排泄ケアへの取り組み<<その3>> ～M氏のニーズに寄り添って～
ゆらくの里日中支援	日中活動の中で適切な支援とは ～N氏に寄り添い信頼関係を結ぶまで～
ゆらくの里コテージ 児童支援課	個別支援計画作成におけるアセスメントの重要性 個別支援計画作成のためのアセスメント強化 ～心の声に耳を傾けよう～
今人 我楽 すみの里	暮らしを支える ～はじめての一人暮らし～ その人らしさを求めて ～0さんの事例を通して～ 個別支援の展開 ～個別支援計画と支援～

その中より、最優秀賞に選ばれたゆらくの里1Gの研究への取り組みを報告します。

ICIDH(国際障害分類)から ICF(国際生活機能分類)へ ～ここを手伝ってもらえれば、私は出来る～

28年度の生活支援 1G 研究テーマは、「ICIDH から ICF へ」ここを手伝ってもらったら私は出来る～に決まり、1年間取り組みました。

このテーマに決まった課程として、サブテーマである個別支援計画を作成するに当たり、日々支援スタッフが想い悩んでいる事（利用者さんの情報整理・いつも同じ内容の視点・前担当者からの引き継ぎ及び支援を変える事へ躊躇する・計画の行き詰まり・他職種との連携等）をお互いに話し合い、時代の流れも医学モデルから社会モデルへという中で、タイムリーに ICF という考え方の必要性を感じ決まりました。

ICF（国際生活機能分類）ってなあに？

International Classification of Functioning, Disability and Health (略称 ICF)

2001年にWHO（世界保健機関）総会で採択された、健康および健康関連領域（教育や仕事・労働、社会生活のように、健康そのものではないが、それと関連の深いもの）に関して、疾病面以外の状況について記述するための、概念枠組みと分類コードである。これにより健康に関する諸専門分野間およびそれらと当事者（本人・家族）との間の、さらに国際的な、適切な情報共有を可能とする、標準的な共通言語を提供するものである。



ICF を使った支援サービス計画書の作成手順として、24 時間シートの作成→ICF シートの作成→ICF シートと 24 時間シートの融合→保護者様へのアンケート→他の支援スタッフの意見及び取扱説明書を用いたシートの作成→取扱説明書の作成（支援サービス計画の作成）という流れで、研究を進めました。

24 時間シートの作成については、フェイスシートやその他の資料から情報を収集し、24 時間シートに転記するのは、たいへん手間の掛る作業でした。

改めて気づき感じた事は、支援計画の土台になるものであり、24 時間シートを作成することから支援が始まると感じました。

続いて、ICF シートの作成では、出来る・出来ないが明確になり、支援すべき点が発見出来ました。新人スタッフでも正確な現状を把握し、支援計画に反映させることが出来る点や利用者さんの人物像が良く見え、支援すべきことが整理出来ました。

ICF と 24 時間シートの融合ですが、結果情報量が膨大になり、当初予想していたよりも分かりづらく、別々に使用した方が使い易いことを発見しました。

■ 24時間シートの目的

24時間シートは「必ずこのシートの手順に従って行動しましょう」という意味ではありません。趣味や好みを職員全員で共有し、「どうしたら一人ひとりの生活をサポートできるか」などの課題・目標を理解するための、現場サイドのツールなのです。

「何が欲しいかわからない」

「必要なサポートがわからない」

「特定の職員しか知らない」

このような状況を無くし、利用者には「自分の望む生活が送れる」「職員によってケアに違いが出るようなことがなくなる」といったメリットがあり、運営側やスタッフとしては「新人とベテランなど、職員間の差がなくなり、ケアの標準化ができる」「情報共有をしているので急な欠員への対応が容易」「どの時間帯に人手が足りないかなどがわかり、効率的な人員運用ができる」「利用者のご家族に介護内容を説明しやすい」などのメリットがあります。

他グループスタッフの意見

《 長所 》

- ▶ ICF用語も分かりやすく書かれていた
- ▶ 環境因子が、そのまま支援計画内容に使えるところが便利だと思った
- ▶ ICFシートは、一つの事柄に関連性を持たせて考えるというのが分かった
- ▶ 今まで支援計画を考えるのは、頭の中でのことだったが、この様にシートを使うことにより、考えが整理され支援も考えやすい
- ▶ 新人スタッフにも対応できている内容だと思う
- ▶ 担当替えの時、前任者がこれを作ってくれと、とっても有難い
- ▶ 施設の日課に合わせる支援でなく、一人一人のライフスタイルに合わせることが出来るなら、個別支援計画は無限に考えることが出来そう。そのことに気付かされた
- ▶ ハード面や何か体制が変わった時に、新たな支援計画を考える材料となる
- ▶ 大変だけど今後も使ってみたいと思う

続いて、今回の研究発表のモデルケースになって頂いたご利用者さんの保護者様へ、アンケートの実施をしました。率直に、貴重な意見を頂く事が出来ました。

他のグループの支援スタッフに、意見及び取扱説明書を用いたシートの作成後の感想ですが、枠が小さく、どこまで情報を書き込めばいいのか分からなかったとか。

新人の頃は、支援計画の作り方に基準が無く、前任者のやり方を引き継ぐやり方や、勉強していても普段使用していなければ専門用語の詳細は忘れてしまっている等の意見ももらいました。研究発表の結果として、アンケートや取扱説明書のバージョンアップを図りながら何度も試行錯誤し、作り変えて来ました。

その中で今後の課題として、実際に使用する際に取扱説明書の内容を説明できるアドバイザーのような存在が必要だと感じました。また、その人材を育成していく必要があると強く感じました。

今回作成した取扱説明書を使用していく事で、環境因子がそのまま支援計画の内容に使用出来る利便性があること、そして今まで支援計画を考えるのは頭の中でのことだったが、このシートを使う事により、考えが整理されて支援が考えやすいことや、新人スタッフにも対応出来る内容であることが有効だと感じました。

今後このシートを有効活用して、ゆらくの里だけでなく、以和貴会独自の取扱説明書を作成出来れば良いと考えております。

natural café Monstera (ナチュラルカフェ モンステラ)



4周年記念イベント開催!!

5/9(火)～5/13 (土)



当法人のナチュラルカフェ モンステラは、おかげさまで4周年を迎える事が出来ました。
皆様への感謝の気持ちを込めて、5/9 (火)～13 (土) の期間中、『4周年記念イベント』を
開催します。期間中は楽しいイベントや、新作パン・新作ランチもご用意しております。
是非、ご誘い合わせの上、ご来店頂けます様、心よりお待ちしております。

4th Anniversary

natural cafe Monstera

5.9-5.13
(tue) (sat)

おかげさまでモンステラは4周年を迎えます！
感謝の気持ちを込めてイベントを開催します！
期間中は楽しいイベントや新作パンが盛りだくさん♪
ぜひ遊びに来てくださいね！

5.9 (tue) AM / PM 有機野菜を食べよう！ 参加費:500円 有機野菜を使ったサンドイッチ試食会＆有機野菜販売！ サンドイッチ、サラダ、ドリンク付き。	5.10 (wed) AM お花の寄せ植え♪ 参加費:3,000円 (材料費込み) 可愛いお花の寄せ植えを一緒に作ってみませんか？	5.10 (wed) PM 多肉植物の寄せ植え♪ 参加費:1,500円 (材料費込み) おしゃれで可愛い多肉植物に癒されませんか？
5.11 (thu) AM / PM 押し花アートを作ろう！ 参加費:1,000円 (材料費込み) 本物のお花からカラフルな押し花アートを作ってみませんか？	5.12 (fri) PM フラワーアレンジメント 参加費:1,000円 (材料費込み) ブルーを基調としたブリザーブド＆アートフラワーでお花のボックスを作ってみませんか？	5.13 (sat) PM パン＆クッキーを作ろう♪ 参加費:500円 (材料費込み) おいしいパンとクッキーを楽しく作りませんか？ どなたでも簡単につくれますよ♪

定員
各10名！

※natural cafe Monstera 4F『天空-ハレルヤ-』が会場となります。

第3回 かしば産業展 3月5日

ふたかみ文化センターで行われた「第3回かしば産業展」に、今年もナチュラルカフェモンステラとして出展しました。「かしば産業展」は、香芝市の産業、商工業、企業の情報を幅広く、市内外に発信するとともに企業間の交流、市民と市内企業とのふれあう場として開催されるイベントです。

今年は香芝の米粉を使用したお菓子のPRということで、ラスク・シフォンケーキ・クッキーの販売を行いました。会場は来場者でたいへんにぎわいとなり、たくさんの方々に以和貴会の商品を知っていただくよい機会となりました。



今人・我楽・すみれの里 入所式 4月1日

平成 29 年度の今人・我楽・すみれの里入所式を、香芝市市長 吉田弘明様をはじめとする多数のご来賓の方々や、各事業所の保護者様にご臨席いただく中、香芝市総合福祉センターにて開催致しました。今年も 8 名の新しいご利用者様をお迎えし、通所事業所のご利用者様の合計も 100 名を超えました。今年度もご利用者様が素晴らしい一年を過ごせる様、職員一同、力を合せて支援をさせていただきます。

ゆらくの里 日帰り旅行 (4 月) 4月11日

今年度の日帰り旅行のテーマは、『個々に楽しんで頂ける旅行』と言う事で、大阪のエキスポシティへの旅行となりました。天候は、あいにくの天気でしたが、天候に左右されず、車椅子の方でも楽しんで頂けるプランを企画させて頂きました。ゆらくの里を出発後、まずは阪急ホテル エキスポパークでの昼食。今回は、エキスポシティで個々に好きなものを食べたりして頂ける様に、通常より量を少なめではありましたが、皆さん、美味しそうに召し上がってくださいました。

食事後は、エキスポシティ内の水族館ニフレルへ。『●●にふれる』がテーマの、水族館と動物園が一つになったような施設で、一部体験型となっている事もあり、動物好きのご利用者様には、楽しんで頂けました。

次に訪れたラポポートでは、買い物を楽しんで頂く事で、『探す』・『選ぶ』・『購入する』と言う私たちが当たり前にしている、でも、施設では難しい体験をして頂けたと思います。車椅子の方も、普段よりも活動的に車椅子を漕がれ、お店を探し回られていました。これまでよりも自由に過ごして頂く時間を長く設定させて頂いたことで、移動が困難な方も余裕を持って旅行を楽しんで頂きました。



アート活動「アトリエ それいゆ」便り

2017年春、新年度も始まり、アート活動も絶好調です。作品発表の場も増え、作品制作・発表を通して共に成長していく機会になっているようです。今回は、取り組みの中で日々気づいた事を書いてみました。

『アトリエそれいゆ』が始まって12年。毎回、試行錯誤の連続でした。会を開いた当初、私自身は印象派の勉強をしていて、技術的な部分は学んでいたものでそれなりに自信があったのですが、実際、障害のある方のアートの支援をしていくと、自分の技術とご利用者の表現したいものがうまくみ合わない…。これはもう、一から勉強しなおさなければ…、という焦りが常にありました。唯一救いだったのは、ご利用者様の「楽しかった」という一言。この言葉があったからこそ、今日まで続けることができたと思います。「う～ん。どこまで私が介入できるのだろうか…」常に悩み続けて答えを探るべく、様々なアートセミナーに参加したり、公募展に応募してみたり…。

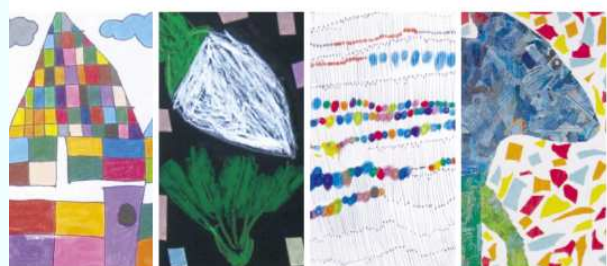
その中で、2015年に開催された、厚生労働省モデル事業「ちょっとみてみて！＝福祉施設職員が出会った表現と日常＝展」で、講師の「アートとは生活そのもの」「生きていく中で『負』とよばれるものが、アートの中では『正』に変わる」という言葉にヒントを見出すことができました。

大切なのは「私がどうしたいか」ではなく、「ご利用者様がどうしたいか」「どう表現したいか」で、支援者はそれがスムーズに実行できるように手助けをするべきだという事に、気づくことができました。

この事で、一気に肩の力が抜けたというか、障害のある方のアート活動支援が、より楽しいものになりました。

1日の終わりに、必ず作品の講評会を開きます。作品の良い所や努力点などを、皆で共に褒めあいます。皆さんも笑顔で、他の人の講評を聞いておられます。その様子を拝見する度に、全体の雰囲気がよくなってきている事や、ご利用者の皆さんに、物事に取り組む時の姿勢が身についてきている事を実感します。

この12年間で、素晴らしい作品がたくさん生まれました。今年度は、念願のアトリエそれいゆ作品展「CUTE & HUMOUR－愛される作品たち－」を開催します。これからも、ご利用者様の表現を大切に、その方の「アート＝生活そのもの」を追求できればと思います。



アトリエそれいゆ作品展「CUTE & HUMOUR-愛される作品たち-」

【会期】2017年8月11日（金）～8月15日（火）
12：00～19：00（最終日 17：00まで）

【場所】ギャラリー・サンク（GALERIE CINQ）
奈良市西寺林町 28-6
TEL 0742-31-8029

アート活動「アトリエ それいゆ」
岡橋 三起子

新入職員紹介

ご利用者様のために精いっぱい頑張ります
どうぞよろしくお願い致します



いのうえ あきこ
井上 彰子 (1月23日入職)
今人 パート

今人で働くことになった、井上彰子です。
よろしくお願いします。



うえじま まき
上島 真紀 (2月1日入職)
我楽 さぼーと班 パート

2/1より、「モンステラ」と「さぼーと」でお世話になっております。皆様に温かく見守られつつ、楽しく働かせていただいています。少しでも早く一人前と言われる様、努力していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



かわたけ なおこ
川竹 尚子 (2月1日入職)
我楽 モンステラカフェ パート

2月より我楽で働かせて頂いています。利用者さんの心からの笑顔をもっともっと見られる様、頑張りたいと思っています。宜しくお願い致します。



なかつ ただゆき
仲田 正行 (2月1日入職)
今人 パート

2月より今人にて勤務させて頂いております。1日も早く利用者様と関係を築くことができますよう頑張りたいと思っています。宜しくお願い致します。



やすだ あきよ
安田 明代 (2月13日入職)
すみれの里 正職員

2月より今人にて勤務させて頂いております。1日も早く利用者様と関係を築くことができますよう頑張りたいと思っています。宜しくお願い致します。



まとはば ゆうじ
的場 雄治 (4月1日入職)
はぐらীব 正職員

4月より HUG・LIVE で勤務させて頂いております。若さを生かして元気に頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。



やまもと りょう
山本 遼 (4月1日入職)
ゆらくの里 正職員

4月よりゆらくの里で勤務させて頂いております。まだまだ勉強する事が多くありますが、自分ができることを徐々に増やして、たくさん支援をしていきたいです。



ぬかた しんたろう
額田 晋太郎 (4月1日入職)
ゆらくの里 正職員

4月よりゆらくの里でお世話になります。利用者様のために自分ができる事を努力したいと考えています。宜しくお願いいたします。



たかがき まさのり
高垣 政範 (4月1日入職)
はぐらীব パート

4月より HUG・LIVE で働かせていただいています。児童とともに楽しく過ごせたら最高です。どうかよろしくお願い致します。



さかもと みずき
坂本 瑞希 (4月1日入職)
我楽 さぼーと班 正職員

4月から「さぼーと」で勤務させて頂いております。皆さんが楽しく、安心して過ごしていただけるように頑張りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

「ぽこあぽこ」平成28年度寄付金報告

平成28年度もたくさんの方から寄付をいただき、総額 626,000 円となりました。ありがとうございました。皆様方の「支え」により以和貴会が運営できていることを実感します。28年度に頂きました寄付金は、7月に開催予定の「第4回 IWAKI夏フェス」や平成30年に予定しております「法人30周年行事」に使用させていただく予定であります。今後は更なる法人運営の透明化を図り、安全で安心な法人であり続けていきます。

日本財団 助成事業完了のお知らせ



このたび日本財団から平成28年度助成金の交付を受け、下記の事業を完了いたしました。ここに完了のご報告を申し上げますと共に、日本財団をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。



一、事業名	送迎車（軽自動車）の整備
一、事業内容	ホンダN-BOX
一、事業費総額	799,000円
一、助成金額	630,000円
一、施設名称	ゆらくの里
一、施設所在場所	奈良県香芝市尼寺616番地
一、完了年月日	平成29年4月18日

「賛助会員ありがとうございました」

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただき、ご利用者のために使用させていただきます。

《ご利用者関係》

牧村元嗣、増尾明広、中筋廣次、三島茂子、片上芳子、池上治人、堀謙輔、丸尾和夫

《業者ほか》

(株)イカリトンボ、(株)ステップワン、(株)タクサン 代表取締役 谷本淳、(株)インテリア森本
日本カルミック(株)

(順不同、敬称略)

「賛助会員募集」

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

すっかり春らしい温かい季節となりました。
桜の花も満開を迎え、お花見に行かれる方も居られるのでは無いでしょうか。当法人ではこの春から新たな仲間もたくさん増え、新たな気持ちで新年度のスタートをきりました。

発行：社会福祉法人 以和貴会
住所：〒639-0261
奈良県香芝市尼寺616番地
編集責任者：理事長 下村 卓司
Mail：office@yuraku.or.jp
発行：平成29年4月